

# 平成 29 年度 福岡市食育研究会

## 研究主題『豊かな心と生きる力を育む楽しい食育の推進』

### 1 主題設定の理由

#### ○ 社会的背景から

児童生徒を取り巻く社会や家庭の状況は時代とともに大きく移り変わり、食生活にも強く影響している。朝食欠食や偏った食事といった食生活の乱れやそれらを起因とする生活習慣病の増加、肥満や過度の痩身、食の安全に対する不安、食べものを大切にする心の欠如、伝統ある食文化の衰退など、食に関する問題は多岐にわたっている。

このような問題に対処するため、平成 17 年に「食育基本法」の制定、栄養教諭制度の開始、平成 18 年には「食育推進基本計画」が策定され、国をあげて食育の推進に取り組むこととなった。「食育基本法」の前文には、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何より『食』が重要である。食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付ける」と明記されている。また、平成 20 年に改訂になった学習指導要領の総則には「学校における食育の推進」が明確に位置づけられ、食に関する指導は学校教育活動全体を通じて総合的に推進することとなった。さらに、平成 23 年度には「第二次食育推進基本計画」が、今年度には「第三次食育推進基本計画」が策定され、食育における成果や課題が整理され、より総合的かつ計画的に食育を進めることが求められている。これらの背景から、豊かな心と生きる力を育むために食育は欠かせないものであると考え、本主題を設定した。

#### ○ 福岡市の動向から

平成 21 年 6 月に策定された「新しいふくおかの教育計画」では、「基本的な生活習慣を身につけ、自ら学ぶ意欲と志を持ち、心豊かに生きる子どもをはぐくむ」という教育目標が定められている。その背景にあるのは、本市児童生徒の体力・運動能力の低下や基本的な生活習慣の乱れという問題点である。文部科学省の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、朝食の喫食習慣が身に付いている児童生徒ほど体力合計点が高く、肥満出現率が低いという結果が出ている。また、最近の研究では、基本的な生活習慣の乱れは体の健康だけではなく心にまで影響を及ぼすことが分かっており、ここでも食生活の重要性が伺われる。これらのことより、豊かな心を育むためにも食育の推進が欠かせないと考え、本主題の設定に至った。

先に述べた「食育推進基本計画」を受け、平成 28 年 5 月に「第三次福岡市食育推進計画」が策定された。その基本理念は、福岡市の食の現状と特徴をふまえ「家庭、地域、学校、職場などとの連携のもと、子どもから高齢者までのすべての市民が食に関する適切な判断力を養い、心身の健康増進を図るとともに、福岡の豊かな農林水産物の活用を通し、食の大切さへの理解を深めることにより豊かな人間性を育むことを目指す。」とされている。生涯を通じた健全な食生活の確立と実践のためには、食習慣が確立する年代である児童生徒に対する発達段階に応じた食育の推進が、学校においても強く求められている。

## ○ 学校における課題から

各教科や特別活動、総合的な学習の時間などの学校教育全体を通して、計画的で系統性をもった食に関する指導の総合的な推進が求められるようになり、各校で食に関する指導の全体計画が作成されることになった。その中では、栄養教諭・学校栄養職員が中心となり、給食献立を「生きた教材」として活用することも求められている。しかし、栄養教諭・学校栄養職員の配置は福岡市内の全小中学校、特別支援学校のうち三割程度という現状である。そこで、栄養教諭・学校栄養職員には、校内にとどまらないコーディネーターとしての役割が要求されるとともに、一般教諭と連携した食育の推進が必要とされている。それらを実現するため、栄養教諭・学校栄養職員には各教科や特別活動、総合的な学習の時間などそれぞれの特質や教育内容の理解と授業力の向上が、一般教諭には食に関する知識と学校における食育推進の体制作りが強く求められているが、現在どちらも最も不十分な課題部分である。お互いに未熟な部分が多いこの現状において食育推進の根を広げていくためには、まず指導者が楽しく取り組めるものでなければならないと考え、本主題において「楽しい食育の推進」とすることにした。

また、生涯にわたる食事を楽しむ豊かな心と健康に生きる力を育むためには、強く印象に残り実践へつなぐ指導を仕組んでいく必要がある。その方法として最も効果的なのは、児童生徒が楽しく取り組める指導と考える。これらの理由から、「豊かな心と生きる力を育む楽しい食育」と主題を設定した。

## 2 主題の意味

### ○ 「豊かな心」とは

自然や美しいものに素直に感動できたり、命の大切さや感謝の気持ちを純粋に感じられたり、他者を思いやることができたりする心のことである。例えば、ただ空腹を満たすだけでなく楽しい時間になるよう盛り付けや彩りに配慮したり、食べ残すことをもったいないと感じたり、お互いが気持ちよく食事するためにマナーを守ろうとしたりすることなどがあげられる。

### ○ 「生きる力」とは

健やかな成長と生涯の健康を維持するために、自ら考えて行動することができる知識や能力のことである。これは、望ましい食習慣と食の自己管理能力を身につけることであり、規則正しい生活を心がけることができたり、栄養バランスを考えて食品を選択することができたりする力のことである。

### ○ 「楽しい食育」とは

興味関心が深い身近な題材や体験活動など、児童生徒が期待をふくらませ、知的好奇心や探究心をかき立てられ、胸を高鳴らせて意欲的に取り組めるような食に関する指導のことである。

一方、指導者にとっては気軽に抵抗なく取り掛かることができる食に関する指導のことでもある。「食育」として特別に取り上げた授業をせずとも、各教科の学習内容に食の視点を盛り込んだり、専門性を生かしたティームティーチングをしたりといった、気負うことなく誰でも取り掛かることのできる親しみやすい指導のことである。

### 3 研究目標

児童生徒の豊かな心と生きる力を育む食育を推進するための効果的な方法を探求する。

### 4 研究仮説

以下の点を充実させれば、食育は児童生徒にとって、また指導者にとっても楽しいものとなり、効果的かつ円滑に食育が推進され、児童生徒の豊かな心と生きる力を育むことができるであろう。

- ・食に関する十分な知識と経験
- ・児童生徒の意欲を引き出す指導づくり
- ・どの学校においても誰でも実践可能な指導づくり

### 5 研究構想

#### (1) 食育を推進するための重点項目

食育には、児童生徒の豊かな心と生きる力を育む大きな力があると考えられる。そのため、食育を学校教育全体で推進していかなければならない。現実的に学校での実践を増やすためには、誰でも取り組みやすい授業を提案していく必要性があり、効果をあげるためには、児童生徒が意欲的に取り組める授業づくりが欠かせない。そうすると、指導者にはその授業づくりのための十分な知識と自らの経験が必要であると考えられる。

そこで、児童生徒の豊かな心と生きる力を育む食育を学校教育全体で広く推進するために、「食に関する十分な知識と経験」「児童生徒の意欲を引き出す指導づくり」「どの学校においても誰でも実践可能な指導づくり」の三点に重点をおく。

#### (2) 二つの部会

重点項目を充実させるための手だてとして、授業実践部と体験交流部の二つの部会を設立した。

##### ○ 授業実践部

栄養教諭制度が開始されて以来、栄養教諭・学校栄養職員の授業力の向上は目下の課題である。一般教諭の食育に関する意識向上を促すためにも、コーディネーターとなる栄養教諭・学校栄養職員自身が教科の特質や内容を十分理解した上で、授業を展開していく必要がある。

一方、一般教諭にとって『食育』という言葉は普及したものの、まだまだ新しい分野であり、詳細な指導内容が定められているわけでもない。そのため、何から手を付けたらよいのか、実際にはどのような授業をすればよいのか分からず、困難さを感じていることも多い。

そこで、「どの学校においても誰でも実践可能な指導づくり」や「児童生徒の意欲を引き出す指導づくり」を進めるために授業実践部において、栄養教諭・学校栄養職員の授業力向上と一般教諭も取り組みやすい授業研究を行う。

##### 研究内容の例

- ・児童生徒の興味関心、課題に適応した題材の開発
- ・教科の目的、特質と関連付けた食の視点を盛り込んだ学習指導の在り方
- ・栄養教諭・学校栄養職員の専門性を生かしたT・T授業の在り方
- ・授業実践と交流

## ○ 体験交流部

体験活動は、児童生徒の興味関心や意欲を高める楽しい授業づくりのために効果的である。また、知識を得たり技能を身に付けたりするための方法としても経験に勝るものはない。指導者となる私たちが体験交流を行うことは、資質向上に努めることに他ならず、実際授業に取り入れるための土台ともなる。

そこで「食に関する十分な知識と経験」を身に付けるために体験交流部において、指導者となる栄養教諭・学校栄養職員や一般教諭が食に関する指導に生かせるような、様々な経験を積む場を設ける。体を動かす体験だけでなく、見学や関係者との交流などを設定し、さらにそこから見えてくる関係者の方々の仕事や食に関わる思いも含め、経験に基づいた授業や教材、資料を作成する。それが「児童生徒の意欲を引き出す指導のための教材や資料づくり」となり、授業実践部での活用へとつながったり、反対に授業実践部で取り上げた題材について体験交流を計画したりと、二つの部会を相互に作用させていく。

### 研究内容の例

- ・ 児童生徒の興味関心を高める題材や体験活動の開発
- ・ 地域の特色や食文化の探究
- ・ 生産や加工に携わる方との交流や作業の見学、体験
- ・ 給食を生きた教材へと発展させるための工夫、提案
- ・ 体験交流活動に基づく資料や教材の作成、発信

## 6 研究構想図

